

---

# ARIA THE IF ~とある青年とアクアの人々~

ニシシ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ARIA THE IFとある青年とアクアの人々

### 【Zコード】

Z5912Y

### 【作者名】

ニシシ

### 【あらすじ】

10年前に父親の仕事でアクアから地球に移り住んだ主人公 浅あ  
葱さき 宗介。全てが自動化された地球のある程度名の知れたアクア・  
ヴィレッタ>というホテルで退屈だとは思いながらもホテルマンと  
して勤務していた。そんな時企画部より「火星に支店をだす」とい  
う提案が発表された。しかし全自動生活に慣れすぎた従業員はあま  
り乗り気ではなかった。そこでアクア出身である宗介に白羽の矢が  
たつたのであった。ひょんなことから10年ぶりに故郷に舞い戻ることとなつた青年とアクアに住と幼馴染である水先案内人やその後

輩達との出会いや青年のバタバタしつつも充実した生活のお話です。今回も駄文になるかとは思いますが時間つぶしなどででも読んでいただければ幸いです。感想等もお待ちしております。

## navigation · 01 主人公紹介 (前書き)

ページを閲覧いただいた方々ありがとうございます。  
本編開始前に主人公の紹介をいたします。追加や修正も行なってい  
きますのでよろしくお願いします。

## navigation · 01 主人公紹介

名前 浅葱 あさぎ  
宗介 そうすけ

年齢 22才

職業 ホテルくアクア・ヴィレッタ>本店 客室乗務員現場補佐  
火星支店客室乗務員現場総括及びその他雑務係。

容姿 黒髪の程よい長さ。ホテルマンらしく清潔にしているがオフの際は多少ボサボサな感じになっていて若干別人に見える。身長は166cmと同じ年齢の男性にしては低い方。

性格 基本人当たりが良く、職業柄か愛想もいい。人の世話を焼く癖がある。

備考 アリシア、晃、アテナ、暁、ウッディ、アルとはミドルスクール時代からの知り合い。生まれは浮島で小さい頃から観光業に興味がありホテルに務めていた父親に憧れよく職場をのぞきに行っていた。父親の転勤で10年前転勤で地球に移住したが全てが自動化された生活にどうも馴染めなかつた。18才の時にくアクア・ヴィレッタ>の客室乗務員に就職。選んだ理由が名前にアクアがあつたのとなるべく自分の手で作業がしたくて客室乗務員を希望。がそこも半ば自動化されておりほかの部署となんら変わりなかつた。アクアの支店に異動後は客室乗務員兼現場総括でパートの方たちの指導や仕上がつた部屋の最終チェックを担当。更にアリシア達と顔見知りという事で水先案人の絡む企画だと交渉役にも駆り出される。オフになるとフラフラと散策するのが趣味。住まいは実家のあつた浮島ではなく地上のサンマルコ広場に近いところの空家を借りて一

人暮らしをしている。地上で迷った暁の避難所にもなつていて灯里、藍華、アリスも訪れることがある。

## navigation · 01久方振りの帰郷（前書き）

大変長らくお待たせしました。第1話投稿ですよ～

「本日も当空間船をご利用いただき。誠に有難うございます。当船はまもなく水の星、火星<sup>アカア</sup>火星<sup>アカア</sup>火星<sup>アカア</sup>でござります。」

船内アナウンスが火星<sup>アカア</sup>到着を知らせる。宗介は久方振りの帰郷に少し期待に胸を膨らませた。なんせ10年振りの奇矯なのだから・・・・ふと今回の帰郷までの経緯を思い出す。

「火星<sup>アカア</sup>での支店展開ですか？」

「ああ。ウチのホテルも以前から火星<sup>アカア</sup>には支店展開の案はあつたんだが、まあ、如何せん地球<sup>マンホール</sup>出身の者はここでの自動化生活に慣れてしまつてから、上も中々話が進んでいなかたつたんだがな。」

上司はふうっと一息ついた。今日の地球はすべての事が自動化されていた。料理や家事、買い物などは勿論の事、果ては仕事や天候までもが自由自在に操作ができていたのだ。故に入々は何一つ苦渋することなく生活をすることが出来ていたのだった。一方火星は近年に惑星開拓され、昔の地球を丸ごと移植されていた。その中でもかつて水の都と言われたヴェネチアは惑星の70%が水に覆われている火星にとつてはうつてつけの移動場所となり、かつてのまま完全移植され、ゴンドラ業や工芸品なども受け継がれていた。現在はネオ・ヴェネチアと名を変え、観光旅行にはもつてこいのスポットとなっていた。そんな所に今回我ホテル「アカア・ヴィレッタ」の支店をだすらしい。

「そうですよね。俺みたいに火星<sup>アカア</sup>出身ならともかく、殆どが地球<sup>マンホール</sup>出身ですからね、こここの従業員達は。」

「まあな。それでな。宗介よ。相談なんだが……お前に、その  
火星アキアに行つてももらいたいのだが。」

「…………マジっすか？」

「マジだ。お前は火星アキア出身だし、なにより……」

「なにより？」

「なにより。地球マンホームでもなるべく自分で料理とかしてるそりじゃない  
か。業務だつて自分でやつてると周りからきいてるぞ。」

「まあ。何かそーしないと、落ち着かなくて。元々ここ受けたのも  
それがあつたからですし。」

宗介は元は火星アキアの出身だつた。10年前に父親の仕事の転勤により  
地球マンホームへ移り住んできたのだつた。元から自分の手で何かをするのが  
好きな宗介は地球来てからも自動化された生の中でも自分でできる時  
は自分でしてきたのだ。当然周りからは少し変な目で見られること  
もあつたが当の本人はガラスの心の持ち主ではないのでさほど気に  
はならなかつたようだ。くアキア・ヴィレッタに就職したのは1  
8の時で求人サイトの広告に目を通したときには名前に故郷の  
名前があつた事。備考にく地球マンホームで唯一乗務員による接客や客室の管  
理等の職有りゝという所に惹かれ、給料や勤務時間等には目もくれ  
ず申し込んだのだつた。もちろん結果は即採用だつた。

「まあ。お前はよくやつてくれたよ。あんな求人でここで人が入つ  
てくるかつて思つてたくらいだからな。しかも結構優秀な人材の発  
見だつたな。残業もするし、面倒な仕事も引き受けてくれるしな。」

「…………といふか他の人がめんどくさがりなだけです。入社した時よりも自動化が進んで、今じゃほぼ自動制御じゃないですか。どこの部門だつて。」

「ははは。まあ、そいつな。上の決めることに現場が意見できなからな。そこで話すを戻すが、お前に火星アカに行つてもらいたいわけなんだが?」

「まあ、俺としてはいい話ですよ。故郷で働けるし、何より自分の手で掃除とか備品チェックとか出来ますしね。ただ、俺いなくなつても大丈夫ですか?」

「かまわんよ。後の事は全員でフォローしてやるし、何より適正にあつた職場を提供するのも上司の仕事だ。ちなみに他の連中だつて同じこと言つと思うぞ。なんせお前、あんま楽しそうに仕事してなかつたからな。特に2年目以降は。」

「……解りました。それでは改めてその異動の件受けさせていただきます。」

こうして宗介は火星アカへ行くことになつた。『えられた役職は「火星支店客室乗務員現場総括」という、まあ要するに現場監督みたいな役職だつた。上司から簡単に今後の日程を聞き、帰宅後直ぐに両親にその事を話すと両親はすんなり承諾してくれた。

「やうか。頑張つてこいよ。おつそうだ。住居の手配なら俺がしておけ。知り合いで安くで良さそうな物件を以前紹介してもらつて

な。その時はまだ帰る予定はないって断つたが丁度いいじゃないか。

「

「本当か？助かるよ。親父」

「ふふ。良かつたわね。10年振りですものね。あの子達もすっかり大人になつてるんでしょうね」

宗介は手元にあつた火星の観光雑誌を広げページを開いた。そこには3人の女性が載つていた。サブタイトルは「火星に来たら一度はどうぞ！！水先案内人のゴンドラヘ」だ。黒い髪に凜とした表情の長身の人が右側。褐色の肌に薄紫の短めの髪の人が左。そして真ん中に金髪で柔らかい、優しそうな微笑みの人。この3人が水先案内人の頂点に君臨する。通称「水の三大妖精」だつた。

「晃にアテナ、そしてアリシア。3人とももう有名人だしな。他の連中にも会つのも楽しみだ。」

「そうだな。会つたときはそれなりの礼儀でよろしくいっておくんだぞ」

「そうね。もうただの幼馴染つてわけにもいかないものね。」

「ああ。よろしくいっておくよ。」

それから幾日か過ぎ、宗介は上司と両親と何故か駆けつけた同僚數名に見送られ火星へと飛び立ち今に至るというわけだ。そして間もなく久方振りの故郷へ到着する。10年前だし。色々変わっているに違いない。建物や人々の風景。そして何より10年ぶりに会う知

り合い達。宗介はたくさん期待と少しの不安？を胸に抱えながら着陸するのを楽しみにしていたのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5912y/>

---

ARIA THE IF～とある青年とアクリアの人々～

2011年12月5日08時45分発行